

平成29年度 第7回小平市公民館運営審議会 会議要録

- 1 開催日時 平成30年3月20日（火）14：00～16：00
- 2 開催場所 小平市中央公民館 会議室
- 3 出席者 小平市公民館運営審議会委員 11名
事務局 中央公民館長、館長補佐兼事業担当係長、管理担当係長、
分館担当係長 8名
- 4 傍聴者 なし
- 5 配布資料 (1) 平成29年度小平市公民館定期講座実施状況表・・・・・・・・・・ 資料1
(2) 平成29年度小平市公民館まつり開催報告・・・・・・・・・・ 資料2
(3) 東京都公民館連絡協議会 職員部会 報告・・・・・・・・・・ 資料3
(4) 東京都公民館連絡協議会 委員部会 報告・・・・・・・・・・ 資料4
(5) 平成30年度小平市公民館事業計画（案）・・・・・・・・・・ 資料5
(6) 提言「公民館事業企画委員会設置後の公民館活動の課題」・・・・・・・・ 資料6
(7) 第54回東京都公民館研究大会報告書・・・・・・・・・・ 資料7
(8) 平成29年度第6回小平市公民館運営審議会会議要録・・・・・・・・・・ 資料8
- 6 次第 (1) 館長報告
(2) 公民館定期講座実施状況について
(3) 公民館まつり開催報告について
(4) 東京都公民館連絡協議会 職員部会・委員部会報告について
(5) 平成30年度 小平市公民館事業計画（案）について
(6) 提言について
(7) その他

会議の概要

1 館長報告

- (1) 平成30年度の主要事業、予算の概要及び予算特別委員会について

①平成30年度 公民館 での主な事業について

地域のコミュニティづくりを支援するため、公民館事業企画委員会を全館に設置し、地域住民の意向を反映した企画講座を実施するとともに、引き続き地域資源を活用し

た地域支援講座やジュニア講座及び、公民館まつり等の多様な事業を実施する。

また、東京オリンピック・パラリンピックに向けて気運醸成を図り、さらなる地域活性化につなげるため、外国文化の理解を促進する学習機会の提供や、スポーツに対する関心を喚起する地域交流の場として、引き続き国際理解講座や語学講座、スポーツレクリエーション体験イベントを実施する。タイムリー講座においては、パラリンピック公式種目であるボッチャを通して、障がい者への理解を深め、ボランティアの育成及び、地域の交流促進や新たなコミュニティを創出するきっかけづくりとしての講座を実施する。

なお、上水南公民館は、開館40周年を迎えることから、40周年記念講演会を開催する。

②平成30年度公民館の予算の概要について

歳入…3,711,000円（前年度比▲84,000円）

歳出…400,161,000円（前年度比▲15,545,000円）

歳出の減の主な理由は、中央公民館の耐震補強工事に係る工事費の減である。

③予算特別委員会について

3月6日～9日に平成30年度予算案を審査する予算特別委員会が開かれ、賛成多数で採択された。

公民館に関する主な質疑

・公民館の備品について

毎年、棚卸をしているのか。

備品や音響設備が相当古いものが多く、その使い方の案内や説明についても、対応する職員が把握していないことがあるので、誰もが説明できるようにしてほしい。

・公民館運営審議会と事業企画委員会の役割の違いについて説明してほしい。

・中央・仲町公民館で設置されているWi-Fiの拡大を検討してほしい。

・事業企画委員会による企画講座の予算が大幅に増額しているが、今後も増加していくのか。事業企画委員会は市民との協働の取組ということでとても大事であるが、社会教育施設としての公民館の視点の予算も確保してほしい。

(2) 中央公民館の更新に係る適否

中央公民館の目標耐用年数は平成35年に迎えるが、公民館の中核的な役割を担う機能を継続する必要がある、また老朽化が進んでいる状況から、「更新を行う」ものとして、今月、基本計画策定方針を策定する。平成30年度からは、市民参加の場を設けて、意見やニーズを踏まえ、将来を見据えた長期的な視点から、市全体の公共施設マネジメントの中で検討し、方向性を示す。

(3) 公民館の事業に関するアンケート調査の実施について

(質疑応答)

- 委員 講師謝礼の予算は増額傾向かどうか。
- 館長 講師謝礼については概ね横ばい傾向になっているが、来年度は上水南公民館の開館40周年事業については増額になっている。
- 委員 中央公民館の建て替えの件だが、市民の声を聞く、より良い方法を具体的に何か考えていれば教えてほしい。
- 館長 まだ具体的には決まっていないが、公共施設のこれからの方向性を考えることに興味のある方を含めて広く募集して、ワークショップ形式やディスカッション形式などを盛り込みながら、市民の意見を広く聴取する。詳細や募集時期などは未定である。この事業を進めるには、中央公民館の更新についての考えを示すと同時に、公共施設マネジメントで示されている健康福祉事務センターなど近隣の老朽化している施設との複合化を検討していく必要があるため、関係部署と共に検討していく予定である。
- 委員 小川公民館が建て替えの時に、利用者懇談会と職員で1～2年かけて良い小川公民館ができたと聞いているので、是非参考にしてほしい。
- 委員 パソコンのリース料が予算化されなかったことについて対策というか、何か考えはあるのか。
- 館長 受講者のパソコンの持ち込みで、中央・花小金井北・小川西町公民館のパソコン講座は実施する。パソコン講座は単なる個人のスキルアップではなく、サークル活動につながる「会報誌」や「チラシ」作成のスキルにつながるものや、コミュニケーションツールとしてのパソコンやスマートフォンの技術を学べる場として工夫して実施していきたい。
- 委員 国分寺市の公民館では、随分前にパソコン講座の予算を削られ、中学校のパソコンルームを借りて講座を実施していた。また、講座を実施する際は、高いスキルを持つ中学生にボランティアとして、講師のアシスタントをお願いしていた。参加者にとっては、気楽に質問ができ、普段、地域で会った時にあいさつができるなど大変好評だった。連携した学校長は初めての経験で始めは心配していたが、中学生が教える立場になることは

学校教育ではなかなか無いこと、何年間か続けるうちに成長につながるものが歴然とわかる、とのことでとても良い実践と感謝していた。ぜひ、そのような視点も取り入れて実施してほしい。小平市の公民館は、どこの公民館も学校とのつながりが強いのは公民館まつりを見てわかるので、地域との連携をさらに強めていく手段やきっかけとして参考にしてもらいたい。

委員 パソコンやスマートフォンは自分のものを持ってきたほうがいい。自分のものでないと実益にならない。

2 公民館定期講座実施状況について
事務局より資料1について説明した。

(質疑応答)

委員 地域連携講座と地域支援講座の違いは何か。

事務局 地域連携講座は、地域で活躍する市民やサークルの方々に講師を依頼することで、地域連携やサークル支援を図ることを目的とした講座である。
地域支援講座は、地域活動の活性化や地域連携をテーマに事業企画委員会で企画した講座で、地域の課題解決につなげることを目的とし、地域連携講座よりも広い視点で企画している。

会長 市民講座、タイムリー講座の募集者がとても多いことがこの資料からわかる。
2020年東京オリンピックに向けての英語の講座が人気であること、夜間講座の応募者が多いのは仕事をしている人とか若い人の参加者なのか。

事務局 内容的にも昼間仕事をしている方にも受講できる講座をというニーズに合わせて実施した結果が応募者数の増につながった。

会長 オリンピックに向けての英語の講座だが、定員を超えている状況が続いている。30年度についても今まで同様市民がこれだけ求めている講座なので実施の検討をしてほしい

事務局 30年度についてもオリンピック・パラリンピック気運醸成にかけた語学講座は、実施するが、加えて新しい試みとして花小金井北公民館で中国語の講座を実施する予定である。

委員 仲町公民館の地域連携講座、「つくってたべようおいしいパン」は定員の6倍の応募があったが、実習室の定員の関係で12名しか受講できなかったと思うが、土曜日だったので親子での参加があったのか、若い人が多かったのか。

分館長 応募者は高校生から80歳くらいまでで、その中から抽選で部屋の定員の12名に絞った。応募が多かったのは、地域で長い期間店を営み、ネームバリューがあったと感じた。

委員 地域の有名なお店だとか、活動されている有名な方だとか、地域の方と一緒に作って食べられるのがいいと思う。他にもたくさんあると思うので、コラボレーションをしてくれたらいいと思った。

委員 中央公民館の成人団体指導者養成講座だが、「広げよう公民館活動」は2回コースだった。講師も受講者も消化不良で5回コースくらいでやりたかった。公民館活動の講座、例えば初めて公民館に来た人や初めて利用者懇談会の役員や事業企画委員になった人達はできれば5回くらい受けた方がいいと思った。この講座はもっと回数を増やしてほしい。

館長 来年度は、「広げよう公民館活動」のような内容の講座は実施しないが、その代わりに中央公民館では「中央公民館フレンズ結い」の、「結いカフェ」の中で4月には、公民館のこれからの方向性や考え、役割を学ぶ場を設けたり、公民館活動の活性化をテーマに対話の場を設ける予定となっている。このような継続的な活動を通して補完できると考えている。
また、事業企画委員会の中で、公民館の役割や目的についてもミニレクチャーしていく予定である。

委員 憲法の講座については継続的に行っている。これは大事なことなので引き続きお願いしたい。

事務局 30年度も憲法講座は、引き続き実施していく。

3. 公民館まつり開催報告について

資料2について各館より報告した。

(質疑応答)

委員 なかまちテラスの入場者数が50万人に達成したとのことだが、3年前のなかまちテラ

ス開館当時と比べてどの位増えたか。また、数え方は。

分館長 3年前、50数団体だった定期利用団体が、現在は67団体が登録している。50万人のゲートのカウントは、なかまちテラスが図書館との複合施設のため、持ち出し禁止用のゲートが南北の入り口にあり、そこを通過して入場した人数の累計となっており、ロビーの利用者や図書館利用者もカウントされている。

委員 「50万人」のインパクトが強すぎて、特別なカウント方法があるのかと思った。他の公民館からみれば羨望の的だと思う。

館長 なかまちテラスの場合は図書館も公民館も同じ入り口になっているので、他の併設館、例えば大沼公民館や津田公民館のように入り口は一緒でも入ってから図書館と公民館の入り口が分かれているところと違い、図書館の利用者も含めたカウントになっている。

分館長 3年間で感じたことだが、建築を勉強している学生や、台湾や中国の方が観光バスで訪ねてくる。同じ観光会社が1年に3～4回来てくれるのがプラスになっていると思う。視察は、台湾や中国の方が50人単位で累計10回くらい来ている。

委員 やはり建物を見にくるのか。

分館長 なかまちテラスを見てから武蔵野美術大学の図書館に行く、観光兼建築の勉強見学コースになっているようだ。

委員 横浜で地域活動フェアが2月10日・11日にあった。大きな都市なので期待をして行ったが期待外れだった。駅前の立地が良い場所で土曜日にも拘らず閑散としていた。東日本大震災に関する講演をしていたが、15名ぐらいしかおらず、小平市で実施されていたは同日、同じようなテーマの講演は大盛況だった。

委員 なかまちテラスについて、建築を学びにきた人からの評価は届いているのか。

分館長 外国から来られた方はツアーの添乗員以外、日本語が話せない人が多く直接評価を聞くことができないが、図書館でなかまちテラスの冊子を販売しているが大変興味を示している。学生については、時間がある時は実際に一緒に部屋を案内して回ると、「とてもいいものが見れて、学ぶことができた」と言う方が多い。
また、前にも報告したが、なかまちテラスの建物は、昨年アジアデザイン賞銀賞を受賞した。

4. 東京都公民館連絡協議会 職員部会・委員部会報告について
資料3・4について報告した。
5. 平成30年度 小平市立公民館事業計画（案）について
資料5について説明し、審議会の承認を得た。
6. 提言「公民館事業企画委員会設置後の公民館活動の課題」について
資料6について副会長より説明し、中央公民館長へ会長から提出した。

7. その他

- (1) 第54回東京都公民館研究大会報告
会長より報告した。

- (2) 委員からの感想
各委員より総括

委員 あっという間の2年間でやり残しがいっぱいある。長年地域住民と共に事業を組み立てているので、国分寺市が小平市よりすぐれていると思った。いろいろ見えてくるとあれもやりたい、これもやりたいとバタバタした2年間だった。

委員 公民館運営審議会の存在だけは知っていたが、具体的に何をやるのかわからないまま委員となった。未だに自分の存在価値はあったのかと反省している。

委員 2年間公民館運営審議会でやってきたことを提言という形で提出できたことを嬉しく思う。前期と含め4年間活動してきた。審議会・各館のおまつり・講座への参加、研修会・委員部会へ参加し、公民館運営審議会の活動を通して地域とのつながり、社会教育の大切さ、公民館という場での学びなど様々なことを学ぶことができた。多くの貴重な経験ができ、感謝している。少しやり残した感はあるが、今後は自分自身の活動を通して公民館を見守っていきたいと思っている。

委員 30年くらい小平市に住んでいるが、自分の住んでいる地域しか知らなかった。委員になって2年間、各館の公民館まつりや事業、事業企画委員会に顔を出してみて、利用する鉄道の駅が13もある小平市がどういうところなのか、少しわかってきた。提言を少しでも進めてもらいたい。

- 委員 職員は風の人、花をたくさん咲かせないといけない。委員は土地の人、花を咲かせる人。だから、市民を煽らないといけないのではないかと印象を受けた。
- 委員 近くの公民館の講座に時間があると参加していた。小平市は他市から見ると恵まれているところで、こんなに活動ができて、勉強ができて、地域の拠点として利用することができ、学校や公民館職員や地域でなかなか出会うことのできない方々と交流ができて、各地域の公民館のまつりに参加し、それぞれの地域性や特性などが公民館によって様々だったが、改めて小平っていいなと思った。
- 委員 小平市に住んで35年、公民館に通って34年、思ったら切れ間なく通っていた。34年前、子どもをおぶって仲町公民館の子育ての講座に行った。委員部会での1年間で他市の状況を聞くにつれ、公民館は最後は職員の能力によるのだと思った。
- 委員 2年前までは、公民館のあり方とか活動がどうあるべきかなど全然考えていなかった。で、どんな人がどういうことを言うのか、恐れていた。未だに公民館に対する知識や経験が無いので、これでいいのかと自問自答しながら2年が過ぎた。公民館活動の認識がどれだけ深まったかどうかまだわからないが、皆さんとの意見交換や審議する中で公民館とはこうなのかとやっとわかってきた。
- 委員 今までは市民として公民館を利用するだけで、公民館がどういうところなのか考えてこなかったが、公民館運営審議会委員の一員としていろいろ話しを聞き、勉強することで公民館の役割は大事だと認識を新たにしました。
- 委員 公民館のまつりに行くと地域の保育園、小学校、中学校、高校、また仲町公民館の場合は大学とのつながりもある。小平の公民館は、社会教育の一端と言われていて地域の人達の学びの場であり、子ども達やその親たちも公民館のまつりで出会う場所になっている。個人的に利用している他のエリアの施設と違って、小平市の公民館の役割は深い。その深い役割を支えているのは公民館の職員だということを2期目で実感できた。

(3) 前回の岩川委員からの質問に対して

- 会長 ①イベント時に利用する横断幕と看板について、長尺のため作成が大変である。有料で構わないので、公民館活動の支援の一環として長尺印刷のできる大型プリンターを使えないのか。
- ②チラシについて、連絡先に電話番号がなかったとの指摘をされたが、電話番号は必要か。

事務局 ①地域学習支援課の大型プリンターは、市民への貸出し用備品ではないとのことを確認した。

②チラシの配架の基準について、電話番号が記載されていないことや、年会費5千円ということで断られたとのことだが、電話番号の記載がないチラシが数年前から増加してきている。そのため、当該チラシの問合せが中央公民館に来ることが多く、利用団体一覧や活動団体データ集等を調べてわかる範囲で問合せに応じてきていたが、窓口業務に多大な支障をきたしてきたため、昨年4月にチラシには電話番号を明記するように中央公民館のチラシ配架基準の見直しを行った。年会費5千円については、単純に月会費と間違えたものと思う。年会費5千円は基準の範囲内なので、配架できる。

(4) 次期公民館運営審議会委員

事務局より報告した

(5) 分館長より挨拶

各分館長より挨拶をした。

(6) 会長あいさつ

この2年間は会長として、知識不足だったり、いたらないところが多々あったと思うが、定例会には休むことなく出席できたことは良かった。東京都公民館連絡協議会等の研修・研究大会にも参加し、住民に必要な公民館とは何か、自分なりに模索して課題を持ちながらこの2年間をやってきた。分館での意見交換会、事業企画委員会等へも足を運び、地域性を活かした公民館まつりも見学して楽しんだ。公民館活動を通して様々な方とつながり、貴重な経験をした。

次回は4月24日 午前10時～ 中央公民館会議室